

先祖を迎え、農作業の労をねぎらう

健康を喜び合い、地域の活性化を願う

いつの時代も人々を魅了してやまない夏祭り

今年も各地で、にぎやかな宴が繰り広げられた

なぜ人は、こんなにも祭りに引きつけられるのだろうか

フォトグラフ

夏祭り

夏に開く祭りの総称「夏祭り」

多くの場合、7月上旬から8月下旬ごろに開かれる祭りのことを夏祭りという。

日本の夏祭りは、盂蘭盆（お盆のこと）・七夕・祇園祭などが関係する行事を起源とすることが多い。農村社会では、豊作に感謝し、夏季の農作業の労をねぎらう行事。一方、都市社会では江戸時代以前の疫病封じやその死者を弔う行事を起源とする傾向が強いようだ。

ただし現代では、その起源的なものは風化し、目的や内容も変わりつつある。現代の夏祭りは厳粛に執り行われる神事というよりは、華やかに催される祭典としての意味合いが強い。夏

の風物詩として、地域ごとに特色ある祭りが定着している。

盆踊りは本来「**霊鎮めの行事**」

夏祭りに欠かせない「盆踊り」。本来盆踊りは、お盆にかえってきた祖先の霊をしずめる**霊鎮め**の行事である。念仏踊り（自分で念仏を唱えながら踊る）から踊り念仏（念仏を唱える人と踊る人が別）に発展した民族芸能が盆と結びつき、精霊を迎え、そして送り出す行事へと変ぼうを遂げてきた。15日の晩に盆踊りをし、16日に精霊送りをするのもそのためである。

一方、盆踊りには娯楽的な一面もある。住民の結びつきを深め、帰省した人々との再会を喜び合う。また、男女の出会いの場でもあった。盆踊りの歌詞に色恋ものが多いのはそのためだ。人々は年に一度、さまざまな思いを夏の夜に託した。



盆踊り…広場の中央にやぐらを立て、その周囲を回りながら音頭に合わせて踊るのが一般的。念仏踊りが起源といわれている。



3年に一度の徳谷神社の大祭（小長井）。子どもたちが、夜空に風船を放ち、夜の部は幕を開けた。にぎやかな宴の始まりだ。